

学校教育目標
やさしい子
元気な子
進んで学ぶ子

学校だより

令和8年8月9日(日)
島原市立第四小学校 No.6

～『命を生かすことこそ平和である』～

先日、劇団文化座による第二次世界大戦終戦後の沖縄を舞台にした劇「命どう宝（命こそ宝）」を鑑賞しました。その中で、今も心に残っている言葉があります。

「土地は、人を傷つけるためではなく、人を生かすために使うもの。」

農民は土地を耕し、作物を育て、人々の命を支えます。一方、戦争では、その土地（基地）が人を傷つけ、命を奪うために使われてしまいます。この言葉は、「平和とは何か？」を私たちに静かに問いかけているように感じました。

本日の平和集会では、4年生が社会科見学で学んだことを発表し、島原市遺族会の小林 様、長崎県連合遺族会の副島 様から戦争体験や平和への願いをお話いただきました。子どもたちは、戦争や原爆の悲惨さを知るだけでなく、「命を大切にすること」「人を思いやること」が平和につながることを学びました。

「戦争は最大の差別である」と言われます。戦争は命だけでなく、人権や幸せな暮らしを奪います。だからこそ、平和は遠い世界の話ではありません。友だちを思いやること、相手の話を最後まで聴くこと、優しい言葉をかけること。一人一人の小さな行動が、平和な社会を築く第一歩になります。

本校では、「Smile & Challenge（笑顔と挑戦）」を合言葉に、子どもたちが互いを認め合い、命を大切にする心を育てています。平和を願う心を、8月9日だけで終わらせることなく、日々の学校生活の中で育てていきたいと思っています。

「命どう宝（命こそ宝）」は、戦後の沖縄復興と日本復帰に生涯をかけ戦い抜いた、瀬長 亀次郎（せなが かめじろう）さんと阿波根 昌鴻（あはごん しょうこう）さんの不屈の魂を描いた劇でした。阿波根 昌鴻さんの考えを表す言葉で締めくくりたいと思います。

『命を生かすことこそ平和である』